

# BRAHMS 2 × BRUCKNER 9

Piano Concerto



ドイツ屈指の名門、伝統と進化の響き

| 第56回大阪国際フェスティバル2018 |

## ワレリー・ゲルギエフ 指揮 ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

Valery Gergiev conducts The Munich Philharmonic

ブラームス：ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 作品83 BRAHMS: Piano Concerto No.2 in B-Flat Major, Op.83

ユジャ・ワン(ピアノ) Yuja Wang, Piano

ブルックナー：交響曲第9番 二短調 BRUCKNER: Symphony No.9 in D Minor



©Kirk Edwards

2018 **11/29** (木) 19:00 開演 (18:00 開場) **フェスティバルホール**  
大阪市北区中之島2-3-18

チケット料金(全席指定・税込)

S席 25,000円 / A席 21,000円 / B席 17,000円 / C席 13,000円 / D席 8,000円 / BOX席 29,000円 / バルコニーBOX席(2席セット) 50,000円 / 学生3,000円

※バルコニーBOX席はフェスティバルホール チケットセンター(電話予約、窓口)のみの販売

※学生席はフェスティバルホール チケットセンターのみの販売(限定20席/25歳以下/学生本人の名前でご予約ください/当日指定席と引き換え/学生証を提示してください)

ご予約・お問い合わせ

フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10:00~18:00) ※窓口での取扱は5月20日(日)より(ただし残席がある場合のみ)

フェスティバルホール オンラインチケット <http://www.festivalhall.jp> (要事前登録)

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 110-938] <http://t.pia.jp/> ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター予約 10:00~20:00) 0570-084-005 [Lコード: 51523] <http://t-tike.com/>

CNプレイガイド 0570-08-9990 <http://cn.cn.jp/> e+ (イープラス) <http://eplus.jp/> セブンチケット <http://7ticket.jp/sc/21nh>

堺市文化振興財団チケットセンター 072-228-0055 (平日 9:00~17:30)

●フェスティバルホール・クラブ会員先行受付開始: 4/21(土) 10:00 ●フェスティバルホール・オンライン会員先行受付開始: 4/28(土) 10:00 ●一般発売日: 5/19(土) 10:00

主催: 朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、フェスティバルホール

協賛: 朝日放送グループホールディングス、京阪ホールディングス、バイオ薬品

※やむを得ない事情により曲目、出演者等が一部変更になる場合がございます。公演中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはできません。予めご了承ください。※未就学児のご入場はご遠慮ください。

OSAKA INTERNATIONAL FESTIVAL  
大阪国際フェスティバル

# BRAHMS 2 × BRUCKNER 9

Piano Concerto



## カリスマと名門が生み出す、情熱とロマン

カリスマのエネルギーと本場の伝統の輝かしき融合——それがゲルギエフ & ミュンヘン・フィルの特徴であり魅力でもある。ゲルギエフは恐るべきハイテンションで劇的な音楽を紡ぎ、オーケストラは精緻かつ重厚なサウンドで呼応する。前回2015年のコンビ初来日公演における両者の化学反応は、これまでの双方にない陶酔感を生み出した。

ミュンヘン・フィルはブルックナー演奏の強固な伝統で知られ、特に1979～96年のチェリビダッケ時代の大伽藍の如き名演は伝説にさえなっている。ゲルギエフは、そのベースを重んじながら清新な脈動を与えようとしている。

それは、前回の日本公演やCDにおける交響曲第4番の演奏でも明らかだ。今回は至高の名作・第9番の登場。1932年、同楽団が原典版の初演と改訂版の演奏を同時に行った歴史的な演目だけに、3年を経たコンビの深化ともども期待は大きい。加えて、変幻自在の技巧と表現で魅せる“新カリスマ・ピアニスト”ユジャ・ワンの出演も嬉しい限り。ブラームスの協奏曲第2番は、本場の楽団に触発された情感溢れる快演となるに違いない。

2世代のカリスマと名門楽団がおくる、大作2つの豪華プログラムで、情熱とロマンにたっぷりと浸ろう！  
——柴田克彦（音楽評論家）

©Natasha Razina State Academic Mariinsky Theatre

### ワレリー・ゲルギエフ [指揮] Valery Gergiev, Chief Conductor



©Decca / Marco Borggreve

現代を代表する指揮者のひとり。1978年にプロコフィエフ「戦争と平和」でマリンスキー劇場にデビューし、1988年には音楽監督となり、1996年からは芸術総監督を務めている。彼の尽力によって同劇場は盛大な音楽祭を行ったり、ワーグナーの楽劇が上演されるようになり、マリンスキー劇場管はオペラやバレエはもちろんのこと、交響管弦楽の分野にまでレパートリーを拡大することとなった。1995年から2008年までロッテルダム・フィルの、2007年から2015年はロンドン響の首席指揮者を務め、2015年秋からはミュンヘン・フィルの首席指揮者に就任した。ほか、世界のトップ・オーケストラの指揮台への登場も多く、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ニューヨーク・

フィル、シカゴ響、クリーヴランド管、フランス国立フィルなどに頻りに客演している。またサンクトペテルブルクの「白夜の星」音楽祭や、モスクワ復活祭音楽祭の国際音楽祭の創設者兼監督であり、2011年からはチャイコフスキー国際コンクールの組織委員会委員長。受賞なども多く、ロシアからは3つの国家賞を授与されたほか、ドイツ、イタリア、フランス、日本などの各国政府からも名誉ある叙勲も多い。

### ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団 The Munich Philharmonic



©wildundleise.de

1893年にピアノ製造業一族のフランツ・カイクが設立したカイク管弦楽団が前身。1928年にミュンヘン市の運営となり、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団と改称した。本拠地はミュンヘン市の複合文化施設「ガスタイク」内の音楽ホール。マラーが自らの指揮で1901年に交響曲第4番、1910年には同第8番を世界初演したほか、ブルックナーの弟子フェルディナント・レーヴェが音楽監督としてブルックナー作品を積極的に取り上げるなど、設立当初から今につながる高い音楽的水準の伝統を歩み始めた。1967年から、世界的な人気を誇ったルドルフ・ケンペが1976年に没するまで音楽監督を務め、同楽団の声価を一気に高めたのに続き、1979年には巨匠セルジュ・チェリビダッケが音楽

総監督に就任した。徹底的なりハーサルで知られるチェリビダッケは、ブルックナーの交響曲の伝説的な演奏を含む数々の名演を残してミュンヘン・フィルの黄金時代を築いた。その後、ジェームズ・レヴァイン、クリスティアン・ティーレマン、ロリン・マゼール、そして2015年9月からワレリー・ゲルギエフが首席指揮者を務め、現在まで欧州屈指の名門オーケストラとして伝統を守り続けている。



©lan-douglas

### ユジャ・ワン [ピアノ] Yuja Wang, Piano

1987年北京生まれ。今や完璧なコントロールを誇る超絶技巧、自由奔放と成熟したアーティスト的な精密さを兼ね備えた若手ナンバーワン・ピアニストとして絶大な評価と人気を誇る。「開いた口が塞がらない」とワシントン・ポスト紙は評した。アバド、バレンボイム、ドゥグメル、デュトワ、パッパノーらの指揮のもと、シカゴ響、パリ管、コンセルトヘボウ管、サンタ・チェチーリア管、ルツェルン祝祭管などの超一流オーケストラと共演している。ドイツ・グラモフォンと専属契約を結び、その録音は数多くの賞を受賞。